

音の輪・音の和



兵庫県音楽療法士会

2012年3月発行

No. 2



10周年記念行事を ふり返って

実行委員長

福井圭子

兵庫県音楽療法士会は、2011年5月に発会10周年を迎えるにあたり、記念式典について、約1年をかけて準備してきました。

2010年4月からは、まず、開催日の検討に始まり、会場の設定に数か所を回って、集まりやすく神戸らしい所を選ぶことを念頭に運営委員会で話し合いました。

同年後半は、その内容について大まかな枠組みを考え、その後、実行委員会を立ち上げて具体的な準備に入りました。10周年記念実行委員会は、

- ・ 記念式典は、コンサートから始める。
- ・ 特別講演会を開催して、多くの方々に音楽療法について関心を寄せていただく機会にする。
- ・ この行事は、会員全体で作り上げていくために、各年度生別にグループを作り、役割を分担して行う。
- ・ 記念誌を発行して、音楽療法活動の一環をレポートし、研究の状況を紹介する。

この4つを柱として会員の総意を得て進め、記念行事を開催することができました。

久しぶりに兵庫県音楽療法士会全員で取り組む大きなイベントだったため『風よ はこんで』のコーラスの練習では、「そんなに声を張りあげないで-----」

と指揮者に言われるほど力が入ることもありましたが、『しあわせ運べるように』と共に心をこめて歌い、東北の被災地の方々にも届くよう、会としてのメッセージといたしました。また、各グループが役割に就いて会場を走り回ったことにもエネルギーを感じ、笑顔でお客様をお迎えすることに繋がりました。

新緑の美しい六甲山の麓にある会場で晴天の中、ご来賓の方々や岡崎香奈先生をお迎えして、応募していただきました多くの一般参加の方々と共に、10周年記念式典及び特別講演会を実施し、記念誌を発行することができましたことに感謝いたしております。

10年の節目に当たり、初心を忘れず、音楽療法の可能性を求め、質の高い実践をめざして研鑽を積み続けることを再確認して記念事業を終了いたしました。ありがとうございました。

10周年 記念式典

震災が
音楽により
癒す十年
生み育て来て
心のケア



癒しの音色・トーンチャイムによるファンファーレのあと、当会顧問の山口陽雄（岡陽雄）先生作曲『風

10周年記念行事をふり返って／10周年記念式典… 1
特別講演会…………… 2
懇親会／アンケート…………… 3

目次

東日本大震災訪問支援ボランティアに参加して…… 3
兵庫県音楽療法士会の活動／研修会・事例研究会の記録… 4・5
音楽の豆知識&楽器紹介／編集後記…………… 6

よ はこんで』と東日本の復興を祈りながら『しあわせ運べるように』を会員全員で歌い、兵庫県音楽療法士会10周年記念式典は始まりました。

まず、北山紀子会長が開会の挨拶をしました。平成14年に27名でスタートし、現在では会員200名を超えたことなど、関係各位に感謝を述べました。

井戸敏三兵庫県知事より音楽療法の発展のために兵庫県が導入施設への補助制度など後押しをしているお話と『震災が 生み育て来て 心のケア 音楽により 癒す十年』とお詠みいただき、山本敏信兵庫県議会議長からも「心のケアに音楽が大切だ。」との内容の御祝辞を頂戴しました。

当会産みの親である山口陽雄顧問は「生活の中には音楽がいっぱいある。それを治療として、また安らぎを与えるもの・希望を与えるものとして利用しよう。益々の発展を望みます。」と言葉を結ばれました。

最後に福井圭子実行委員長の挨拶で閉会しました。



特別記念講演は、洗足学園音楽大学・大学院准教授・日本音楽療法学会評議員・英国及び米国音楽療法士の岡崎香奈先生をお招きし、『音楽の可能性 音楽が人間にもたらす臨床的作用について』お話しいただきました。

*

本講演は、初めて音楽療法のお話を聞かれる方から現役の音楽療法士まで、幅広い聴衆にご自身の音楽での力の体験談や音楽療法の歩み・音楽療法の対象者の紹介、そして、臨床に携わってこられた24年間の多くの研究から「音楽要素の臨床作用」「音楽的間(あいだ)」「奏でられる音楽の鮮度と健康性」を中心にお話しいただきました。その中では、認知症高齢者・脳性まひによる肢体不自由児・脳梗塞の後遺症による失語症等々の症例を臨床場面が見えるようにご紹介いただいたり、会場の聴衆の方々にも音楽体験をしていただきました。

音楽体験では、「ふるさと」の伴奏にスポットが当てられ、会場のピアノで生演奏をして下さり、聴衆の方々の歌唱体験を通して分かりやすくお話いただきました。臨床場面で「ふるさと」を歌うと、記録は「ふ



井戸敏三知事からのご祝辞



るさとを歌った」となりますが、伴奏の仕方で対象者の歌いたくなる気持ちが引き出されたり、歌い方が変わります。この時、音楽療法士は、既成曲であっても音色・音量のバランス・フレーズの作り方・テンポ…等、歌っているその瞬間の音楽的要素の見極めが大切です、音楽を意図的に使用する必要があること。また、症例からは、個々の治療目的に合わせ、対象者が音楽要素の何に身体が反応しているのか・自己表現を引き出す可能性があるのか…等、使用する楽曲や即興の演奏を意図的に分析し、臨床的作用を知り実践していく紹介もしていただきました。

「音楽的間(あいだ)」では、対象者と音楽療法士の生身の人間同士が音楽をする空間に起こる臨床場面での目に見えるものと音楽に込められたメッセージ(音の質感・タイミング・伝わり方・音の力・音の圧等)の臨床的要素にも着目した質的音楽療法の研究についてのお話がありました。

「奏でられる音楽の鮮度と健康性」では、既成曲・即興に関わらず、音楽は、音が鳴った瞬間に消えてしまうその瞬間の音や声に込められた対象者のメッセージを読み取り、音楽療法士がその瞬間の音の鮮度を高め介入することが大切であり、その中で奏でられる音楽の鮮度があればある程、臨床的作用が発揮され音楽の健康性が増加するという示唆がありました。そして、音楽療法士には、「温かい心」「冷静な判断」ともう一つ「新鮮な精神」も加えたいと話されました。

最後に、東日本大震災で音楽療法には、今まで以上のものが求められていること、そして、兵庫県の音楽療法への長期に亘るゆるぎない姿勢に賛辞をいただき、兵庫県のオリジナリティーを日本のみならず世界へ発信していけるようエールをいただき特別講演が締めくくられました。



懇親会



宮本裕美副会長の開会の挨拶で始まり、兵庫県議会議員 原吉三様、兵庫県健康福祉部健康局長 柏由紀夫様より御祝辞をいただきました。

その後、兵庫県議会議員 羽田野求様の御発声で乾杯。和やかな雰囲気ではじめました。

ご参加いただいた向陽病院 院長 山口健也様、岐阜県音楽療法研究所 所長 山下典男様、日本音楽療法学会 近畿支部長 鈴木暁子様、武庫川女子大学名誉教授 益子務様からも御祝辞をいただきました。

会員有志による、トーンチャイム・コーラス・クラリネットアンサンブル等の演奏を聴きながらの優雅な会食で、参加者の交流がより深まりました。

最後に益子務様の指揮による「ふるさと」を全員で歌い、盛会のうちに閉会となりました。

《アンケート》 記念式典終了後、一般のお客さまからのお声をいただきました。

★兵庫県音楽療法士会の歴史がよくわかった。講演では実例を見ることができ参考になった。

(神戸市20代女性 知的障害者入所施設職員<促進事業導入>)

★施設で音楽療法を取り入れているが、療法士の個々の感性・人間性・引き出しの多さはどこでどう評価されるのか？ (三木市50代男性 デイサービス管理職員)

★講演会のピアノのアプローチや実践のビデオがよかった。県の資格を取りたい。(神戸市 専門学校生)

★講演を聞いて音楽療法の奥深さを知った。資格取得に興味をもっていたが、かなりの専門性をもとめられるので

専門家に任せた方がよいと思った。

(幼稚園教諭・ヘルパー資格有)

★音楽を通して意図的に関わり分析し、他者の自己表現を援助できるよう地道に活動されている事に感動した。

(姫路市女性 身体障害者支援施設生活支援員)

*

この他にも貴重なご感想をいただきました。皆様からの言葉を参考に今後も研鑽を積みしたいと思います。お忙しいところアンケートにご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

東日本大震災訪問支援 ボランティアに参加して

この文章を書かせていただくに当たり、3月11日に起きた大震災によりお亡くなりになられたたくさんの方々に、改めて深く哀悼の意を捧げたいと思います。そして、甚大なる被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げますとともに、心身ともにお健やかになられ一日も早く元の生活に戻られますことを願ってやみません。

阪神淡路大震災をきっかけに養成されそして誕生した私たち兵庫県音楽療法士にとって、あの日以来東北の皆様にとどのようなお手伝いや支援ができるのかずっと模索を続けました。すぐにもかけつけてお役に立ちたいと思うものの、それぞれに慎重に検討を重ねていたところ、有難いことに県からも応援をいただけることになり、先遣隊として6月の訪問そして9月10月11月と計4回訪問支援活動を行いました。私はコーディネーターとして4回とも宮城県気仙沼市と南三陸町を訪問致しました。初めは移動する道路事情や運転ボランティアの確保・インフラの状況・宿泊先、そして何よりも訪問先の決定等々不安ばかりでしたが、県から情報をご提供いただいたり私の知人の紹介もあって何とか実行できました。

私を含め8人の療法士が会員皆さんの『本当は私も行ってお役に立ちたい』という想いと共に宮城県の方々と触れ合わせていただきました。

家もお孫さんも津波で流されてしまったと話してくださったおばあちゃんや最敬礼して見送ってくださったおじいちゃん、静まりかえった避難所の体育館、障がいがお有りでも自分の役目をきちんと果たそうとしていた方々、その他どれをとっても忘れられない光景です。

今回の支援は終わりましたが、復興復旧にはこれからまだ長い時間を要することでしょう。この経験を忘れることなく今後は色々な形で応援できたらと思っています。

(井上 恭子)

平成23年度

研修会・事例研究会の 記 録

※各領域の先生をお招きし、スキルアップを図っています。

5月 稲松真人先生
(兵庫県介護支援専門員協会相談役)

「介護保険について」

6月 自主勉強会

- 会員によるセッションのアイデア紹介
- 実践と意見交換
- 事例発表のための勉強会

7月 松井紀和先生
(日本臨床心理研究所所長)

「三種・三層・構造論」

- 事例研究
- ワーク

8月 山根 寛先生
(京都大学大学院医学研究科教授)
作業療法士

「ひとと音・
音楽作業療法の視点から」

公開講座

4月 岡 寄 順 子 先生
(臨床心理士・交流分析士)

「音楽療法士としてのセルフケア
～ストレスを力に変えて
生き生きと暮らすために～」

実

それぞれの療法士が
施設・特別支援学校
ハビリテーション病
実践

研修会・事例研究会※

月に1度、
各領域の講師
をお招きして
の研修会・事
例研究会



コンサート

各種団体からの
依頼を受けての
コンサート



促進

兵庫県から
けて平成18
音楽療法の
業・平成23
着促進事業

9月 糟谷由香先生
(くらしき作陽大学講師)
米国公認音楽療法士

「音楽療法における臨床評価
児童を対象とした
一事例に基づいて」

- 事例研究
- ワーク (神経学的音楽療法における
注意コントロール訓練法)

法士会の活動

療法の普及と発展に努めることを目的として活動をしています。

実践

高齢者や障がい者(児)また、精神病院やリ院、ホスピスなどで



講習会・デモンストレーション

各種団体からの依頼に対して、音楽療法の実演・音楽療法についての講義などが実施可能な会員の情報提供などを行う

総会・連絡会

年に1回の定期総会・月に1回の連絡会



事業

の補助を受
～22年度は
導入促進事
年度より定
を実施

3月 黒田裕子先生
(NPO法人阪神高齢者・障害者)
支援ネットワーク理事長

「いのちに寄り添い
心をつなぐ一絆一」

2月 根岸由香先生
(筑波大学付属大塚特別支援学校教諭)

「共に響き合い心つなぐ音楽活動
～社会性を育む音楽活動の工夫～」

●ワーク

1月 長坂希望先生
(全米音楽療法協会認定音楽療法士
日本音楽療法学会認定音楽療法士
ドラムサークルファシリテーター協会理事)

「ドラムサークル
～打楽器即興演奏活動～」

●ワーク
●事例研究

12月 横沢道治先生
(ジェンベ奏者・コンサート企画)
ジェンベショップ・教室主宰

「リズムを楽しもう！
～リズムの理解と楽器の演奏～」

●ワーク

公開講座

11月 地区別研修会

●A地区 平尾浩子先生
「感受性を高めるグループ体験」
●B地区 池田智子先生
「続・兵庫県音楽療法士認定更新のあれこれ」
●C地区 村上由加先生
「作業療法の日々の実践から」

10月 二俣 泉先生
(東邦音楽大学准教授・音楽療法士)

「音楽療法における
スーパービジョン」

●事例研究
●ワーク(グループエンカウンター)

音楽の豆知識 & 楽器紹介♪



こうすれば治る!! 調子っ外れ



みなさんの周りでカラオケに行った時、「音痴だから」と言って歌う事を頑なに断り、みんなの歌を聴いているだけの方はいらっしゃいませんか？

今回、歌うことに対して自信がもてず、悩まれている方に少しでも希望を持っていただけのきっかけの1つになればと思い、今回のテーマにしました。

まずは、拍にのる練習をしましょう。きちんと拍を数えるクセをつけましょう。そして、自分の声、伴奏の音をよく聞くクセをつけましょう。ピアノやオルガンでひとつの音を出し、その音と同じ高さの音を出す練習から始めたり、メロディーのキーを上げたり下げたりして練習してみてもどうでしょうか？

もちろん、歌う経験を積む（時間をかける）ことが基本的に大切です。

参考文献／八木正一編著

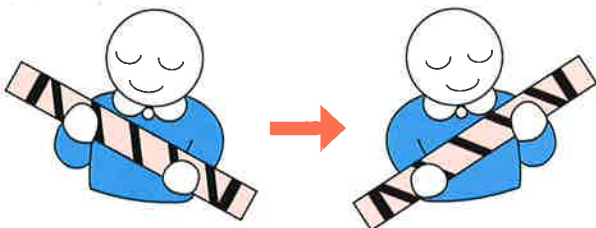
「音楽授業を20倍楽しくするお話のネタ」

楽器紹介 レインスティック



雨の音がする棒といった意味です。枯れて乾燥したサボテンを拾いあげたところ、雨音が聞こえたという偶然から生まれたという楽器です。インディオの雨乞いの儀式にも使われていたと言われています。

乾燥させた筒状のサボテンの中に小石などを入れると刺に引っかかりながら落下していくことで、きれいな音が出ます。音楽療法の現場においても、波の音や雨音といった自然音の再現や、リラクゼーションなどで使われています。

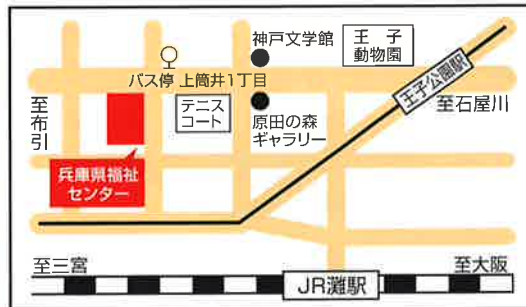


拍とは、例えば「4拍子」は4つの拍のまとまり、「3拍子」は3つの拍のまとまりのことを言いますが、ここでは“拍にのる”は手で拍子を取りながら“リズムにのる”のようにイメージしてもよいかもしれません。

おめでとう ございます

平成23年5月18日(月)、兵庫県公館において兵庫県功労者の表彰式が行われました。「音楽療法の普及発展に努め、県民福祉の向上に尽くされました。」と音楽療法では初めての福祉功労賞を堀早苗顧問が受賞されました。ここにご報告をさせていただきます。

HMTA事務所は《兵庫県福祉センター6F》です



JR灘駅・阪急王子公園駅下車 徒歩約10分
神戸市バス(90・92系統)上筒井1丁目バス停下車 すぐ

〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター6F

TEL・FAX(078)261-9601 E-mail : hmta_02@ybb.ne.jp URL : <http://hmta2.net/>(3月15日に移転しました)

編集後記

東日本大震災から一年が経ちました。阪神淡路大震災をきっかけに誕生した私たち兵庫県音楽療法士会。東北への支援など「いま、私たちにできることを…」との思いで活動をしてきました。ほんの一部ですが、その足跡をお届けいたします。

発行に際し、ご協力くださった皆様に御礼申し上げます。